

スポーツ振興事業助成金「競技大会助成事業」実施報告

助成事業の実施結果及び助成金の使途に関する情報(令和元年度・2019年度)

○助成対象事業

競技大会名 「FISジャンプワールドカップ2020札幌大会」
期 日 令和2年2月1日(土)～2日(日)
会 場 札幌市 大倉山ジャンプ競技場

種 目: 2月1日(土) ラージヒル(HS137) 個人戦(16:30 競技開始 ナイトゲーム)
2月2日(日) ラージヒル(HS137) 個人戦(10:00 競技開始)
参加選手数: 58名 外国選手 46名(その他海外役員・各国コーチ数 61名)
日本選手 12名(クォーター6名+開催国枠6名、参加国数14か国)

(今年度のスポーツ振興助成金「競技大会助成事業」は、1980年より札幌で開催している男子ジャンプワールドカップ札幌大会へのご支援ご協力をお願いして実施した。)

1980年から始まった国際スキー連盟主催のジャンプワールドカップは、札幌においても40年の歴史と経験を積み重ね、継続的に開催してきた世界トップクラスのジャンプ選手が多数参戦する国際大会である。

1月31日の予選ラウンドに、開催国枠12名の日本選手を含む58名が参戦、昨シーズン年間総合優勝を果たした小林陵侑選手(土屋ホーム所属)を擁する日本チームは、世界各国の選手と熱戦を繰り広げ、小林陵侑選手が予選ラウンドを1位で通過、翌2月1日の第1戦に上位50名が出場した。

ナイトゲームの第1戦は、大倉山競技場特有の気紛れな風に翻弄され、2本のジャンプを揃えることが難しい中、小林選手と共にワールドカップで勝利を挙げている佐藤幸椰選手(雪印メグミルク)が、1本目の6位から2本目大ジャンプで順位を上げ今季2勝目となる優勝を果たした。1本目1位で折り返したエース小林選手は、2本目に飛距離を伸ばすことが出来ず15位、日本選手の1、2位表彰台とはならなかったが、日本選手の活躍で会場は大いに盛り上がった。ライバルのクラフト・シュテファン選手(オーストリア)が2位、クバッキ・ダヴィド選手(ポーランド)は3位で、着実にポイントを積み上げた。

翌2月2日の第2戦は、小雪の中競技が行われ、前日2位のクラフト・シュテファン選手は、得意の大倉山で力強いジャンプで優勝を飾った。地元の声援を受けた小林選手は前日の結果を払拭、3位に入るなど、表彰台常連の実力を見せつけ、地元の声援に応えた。他の日本選手も地元での開催でポイントを獲得、ワールドカップに参戦する選手層の拡充を図る上で重要な大会となった。

助成金の使途

下記の助成対象経費の一部に充当 競技会開催/助成金額 6,789,000円
借料及び損料(会場設営機材等)
雑役務費(競技場整備・警備等)

FIS Ski Jumping World Cup
2020 Sapporo



2020.01.31



2020.02.01



2020.02.01



FIS Ski Jumping World Cup
2020 Sapporo

FIS Ski Jumping World Cup
2020 Sapporo

